

# 見つめあう 西と東

人間革命と地球革命

創価学会名誉会長

池田大作

ローマクラブ名誉会長

R・D・ホフヴァイトネル



第三文明社

人間革命と地球革命

# 見つめあう 西と東



# 見<sup>み</sup>つめあ<sup>に</sup>う 西<sup>にし</sup>と東<sup>ひがし</sup>

## —人間革命と地球革命

二〇〇五年十一月十八日 初版第一刷発行  
二〇〇六年八月二十四日 初版第四刷発行

著者

池田大作／リカルド・ディエス＝ホフライイトネル  
いけだ だいさく

発行者

大島光明

発行所

株式会社第三文明社

東京都新宿区新宿一―二三―五

郵便番号

一六〇―〇〇一一

電話番号

〇三(五二六九)七―四五(営業)

〇三(五二六九)七―五四(編集)

URL <http://www.daisanbunmei.co.jp>

振替口座

00150-3-117823

印刷所

明和印刷株式会社

製本所

牧製本印刷株式会社

©Ikeda Daisaku / Ricardo Diez - Hochleitner 2005 Printed in Japan

ISBN4-476-05041-7

乱丁・落丁本はお取り替えますので、ご面倒ですが、  
小社営業部宛お送り下さい。送料は当社で負担いたします。

プロフィール

2

第1章

ペッチェイ博士との出会い

9

第2章

幼少時代

27

第3章

スペインの風土と文化

45

第4章

スペイン国王

65

第5章

地球的問題群

79

第6章

グローバリズムの光と影①

戦争と平和

93

第7章 グローバリズムの光と影② 民衆のグローバル化 111

第8章 「米・欧・亜」の三極の将来 125

第9章 指導者革命とグローバル・ガバナンス 143

第10章 世界市民教育 163

第11章 宗教と精神のルネサンス 187

第12章 人類の位置と使命 永遠の探求者として 207

注 220



## プロフィール

リカルド・デイエス・ホフライトネル Ricardo Diez-Hochleitner

ローマクラブ名誉会長。1928年、スペイン生まれ。サラマンカ大学卒業後、ドイツのカルスルー工科大学で化学機械製造などを学び、スペインにおける化学産業の促進に寄与する。スペイン、コロンビアで大学教授を務め、ユネスコ理事、スペイン教育科学相、世界銀行教育投資部初代部長など国内外の要職を歴任。91年ローマクラブ会長となり、2000年、名誉会長に。著書に『教育の展望 改革と計画』などがある。





池田大作 Ikeda Daisaku

創価学会名誉会長。創価学会インタナショナル（SGI）会長。

1928年、東京都生まれ。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所、戸田記念国際平和研究所などを創立。『人間革命』（全12巻）『私の世界交友録』『世界の指導者と語る』など著書多数。また世界各国の識者と対話を重ね、『二十一世紀への対話』（A・トインビー）『二十一世紀への警鐘』（A・ペッチェイ）『二十世紀の精神の教訓』（M・S・ゴルバチョフ）『地球対談輝く女性の世紀へ』（H・ヘンダーソン）など数多くの対談集がある。

本書は、池田SGI会長とR・D・ホフライトネルローマクラブ名誉会長との対談（『第三文明』誌 2004年5月～2005年3月号掲載）を両者の合意のもと、一部加筆し、発刊の運びとなったものです。

見つめあう西と東  
人間革命と地球革命

目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| プロフィール                 | 2  |
| 第1章 ペッチェイ博士との出会い       | 9  |
| 第2章 幼少時代               | 27 |
| 第3章 スペインの風土と文化         | 45 |
| 第4章 スペイン国王             | 65 |
| 第5章 地球的問題群             | 79 |
| 第6章 グローバリズムの光と影① 戦争と平和 | 93 |

第7章 グローバリズムの光と影② 民衆のグローバル化 111

第8章 「米・欧・亜」の三極の将来 125

第9章 指導者革命とグローバル・ガバナンス 143

第10章 世界市民教育 163

第11章 宗教と精神のルネサンス 187

第12章 人類の位置と使命 永遠の探求者として 207

注 220

装幀 ザ・マン  
写真提供 聖教新聞社

# 第1章 ペッチェイ博士との出会い



「明日では遅すぎる。今日、何かしなければ」

池田 ホフライトネル博士は、かつて言われました。

「『明日では遅すぎる。今日、何かしなければ』という危機感に突き動かされて、働いています。人類の直面している問題が、あまりにも大きく、深刻で、緊急を要するものですから――」。

自分のしている貢献は、あまりにも小さい。人類のために、もっと何かしなければならぬ。そう思って、動いているのです」

博士は、人類の頭脳・ローマクラブの会長職を、後任のハッサン<sup>\*</sup>会長（ヨルダン王国王子）に引き継がれた後も、この言葉通り、強靱<sup>きようじん</sup>な責任感をもつて世界を東奔西走<sup>とうほんせいそう</sup>してられました。世界の最先端の英知と行動の方である博士と、このように対談できることをうれしく思っています。

ホフライトネル 私のほうこそ、世界を駆けめぐってこられた池田会長の足跡を目の当たりにして、「何が、あなたをここまで動かすのか!」と驚嘆<sup>きやうたん</sup>しております。私は、会長の人格と理念と行動、また会長の率<sup>ひき</sup>いる仏教団体である創価学会が繰り広げる活動に賞讃<sup>しょうさん</sup>

を惜しみません。

池田会長の事業を最初に知ったのは、会長が、わが最愛の旧友であるベツチエイ博士と対談したことを通してでした。池田会長との語らいは、私にとって、精神的な意味からも、知性のうえからも非常に重要な経験となりました。大きな榮譽であるとともに、偉大なインスピレーションの源となってきました。

池田 私どもの運動に対する深いご理解に感謝いたします。

ホフライトネル博士と初めてお会いしたのは、一九九一年、私が創立した「ヴィクトル・ユゴー文学記念館」（フランス・パリ郊外）の開館式の折でしたね。博士は、わざわざスペインから駆けつけてくださった。

ホフライトネル ええ。よく覚えています。ユゴーは傑出した人物ですが、フランス人が、実際にその真価を認めて、ヨーロッパ共同体の形成にかかわる人物として尊敬を寄せ始めたのは、最近のことです。私は、ユゴーの家を造ることを考えついたのが、一人の日本人であることに信じられない思いがしました。

池田 ユゴーの文学は、わが青春の伴侶であり、わが人生そのものでした。現代は、ユゴーのごとき、何ものも恐れぬ精神闘争を必要としているのです。記念館は、その偉大な精